

## 【別紙】

### 2010 平和ノサップ集会 集会アピール

日本固有の領土である択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島。旧ソビエトによる不法占拠から今年で65年、日ソ共同宣言による国交が回復して以来50年以上が経過した。

連合は結成以来、北方四島の一括返還を求め国民運動の中心的役割を果たしてきた。しかし残念なことに、島を取り返したい、島に帰りたいという、元島民の思いは叶わず今日を迎えている。

このような中、ロシア政府は、莫大な予算を投じ、クリル「社会経済発展計画」により、港湾・空港等のインフラ整備を進め、北方四島がロシアの領土であるがごとく、既成事実化している。このことは、島民を含めたロシア側の四島返還の対応を硬直させ、領土交渉をより難しくする可能性がある。

一方日本においては、昨年、政権交代が実現し、民主党を中心とする新政府が誕生した。

新政府で臨んだ、昨年9月の国連総会が、11月APEC首脳会議で行われた「日ロ首脳会談」において、ロシア・メドベージェフ大統領から、領土問題を是非前進させたいとの発言を引き出したものの、具体的な進展はない。

日本政府は、元島民の高齢化も進む中、日本固有の領土である北方四島の一括返還を一日も早く実現し、日ロ平和条約を締結すべきである。

本日、私たち連合は北方領土返還運動・原点の地であるここ北海道根室市の納沙布岬に全国から集結した。昨日のニホロにおける「北方領土学習会」と、本日の「2010 平和ノサップ集会」で得たものを全国それぞれの地域や職場へと持ち帰り、それを広げ、今後とも北方四島の一括返還が実現するまで、北方領土返還運動に粘り強く取り組んでいくことをここに誓う。

以上、集会アピールする。

2010年9月12日  
2010 平和ノサップ集会